

丸ばかりで作る切抜細工

山形寛

一概説

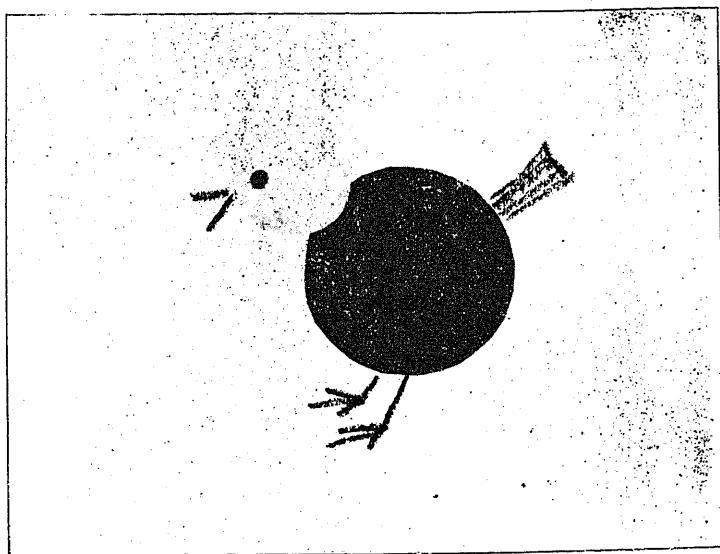
此所に示した五つの切抜細工は、全部丸ばかりで作つた切抜細工であることは挿圖を見られれば解る通りである。

かう云つたやうな細工は、材料はいくらでもある。こゝに掲げたのはほんの一例に過ぎないので考へればもつと趣の異なつた多くの人物や、鳥類は勿論、獣類の幾つかも容易に作れるであらう。そして作り方は甚だ簡単であるから、幼兒にも充分出来る程度のものである。

然しがう云つたやうな、きまり切つた形のもの

ばかりで構成することは甚だ概念的なものとなつてしまふ恐れがあるから、五つか六つ位やらせる程度に止めて置きたいと思ふ。少類やらせ置く分には決して害はないばかりでなく、相當構成力や抽象する力を養ふ上の利益があらうと思ふ。

この細工に用ふる丸は、少さいものは總て丸形の打抜で打抜いてやつたものを用ひさせるがよい大きいものは大きな打抜があれば打抜いてやつてもよいが、それよりもブリキ板かボール紙などで數種の型を作つて置き、その型を色紙の裏に載せて周圍を鉛筆でなすつて形を寫し、それを鋏で切りとらせるがよい。



第一圖

こゝに示した挿圖は總て十六切の畫用紙を臺紙とせる大さのものであるが、その大きさにすると、最後の二つの人物の如きは、あまり小さな丸を澤山用ひなければならぬことになつて、貼るのに困難であるから、これだけは八切大の畫用紙を臺紙とせる程度の大さにするがよい。臺紙には挿圖のものは總て白い色の畫用紙を用ひたけれども、羅紗紙とか茶ボーカ紙の薄いものとか、ハトロン紙の厚いものとか云つたやうな、色のある（あまり濃い色のものは不適當である）紙を用ふれば一層妙である。

扱て作り方の極大體を説明しやう

ニ 小 鳥

第一圖は小鳥である。大小二箇の丸を作り、先づ體になる大きな丸を中心より一寸かたよせて貼り、次に頭の丸を貼り、糊が乾いてから嘴眼脚尾

などをクレインで画くのである。

この小鳥は、體と頭との位置をどの様につけても小鳥に見えるもので、嘴の如きも後向につければ、小鳥のよくやる後をふり返つて居るやうなものとなつて、よほど拙くやつても小鳥らしくなるものである。

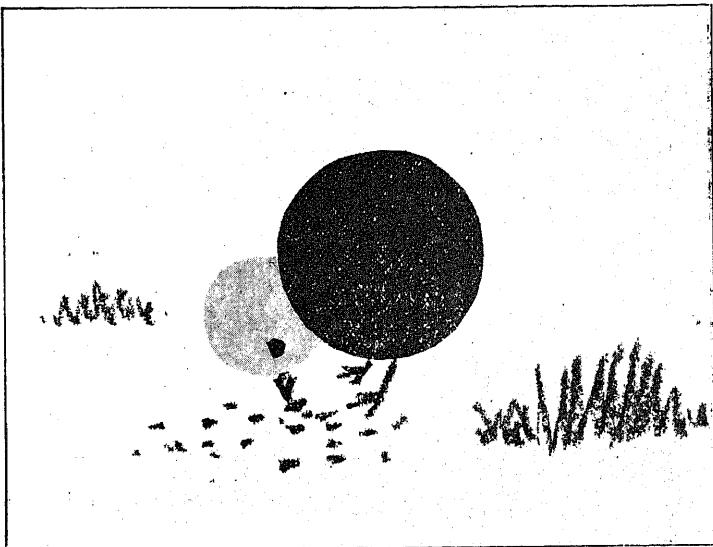
眼はあるべく嘴の近くに画くと、りこうさうな顔になるものである。あまり頭のまん中に近く画くと間が抜けるものである。

この細工で最もむづかしい所は脚のつけ方であるから、こゝはよく見てやるがよい。

三ひよこ

丸の大きさは小鳥と同様なものを用ひ、その結合も大體同じであるが、挿圖に示したものは頭の方を先に貼つてある。

丸が貼れたら、嘴、眼、脚、餌、草などをクレ



第二圖

イヨンで書くのである。嘴は長くならないやうに
書くことが必要である。脚も亦短い方がよい。

思つたならば、書用紙八切大の臺紙に二羽向き合
ひに居るところを作つてもよい。

四 人

第三圖は人である。大小二箇の丸
から成つて居ることは、圖を見れば
解る通りである。

この人には手を書き込まないでも
よい。或はこの上に小さい丸を二つ
貼つて足を作らせててもよい。

第三圖



このひよこにも三角形をした尾をつたり、羽を
書いたりしてもよい。又一羽だけではさみしいと
頭の下から約五分の二位の所にあるもので、男子
の大人が中央より心持ち上になる位のものであ

る。實際の顔はかう云ふやうになつて居つても眼から上には畫くべきものが少く下には鼻とか口と

五 ダンスをしてゐる人

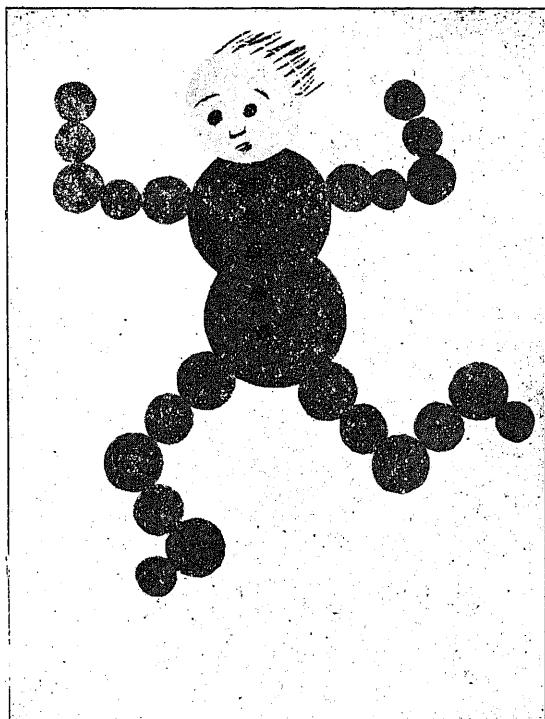
第四圖は少し澤山の丸を使って人を作つて見たのである。これを作るのは、貼る前に丸をみんな并べて姿勢をよく見てから一つづゝ貼つて行けばよいのである。かう云ふ作り方のものは「ダンス」なんてしないで只立つて居る所のものにしてもよいのである。

第四圖

六 駆けてゐる人

第五圖は前のものと同じやうな方法で、駆けてゐる所の姿勢を作つて

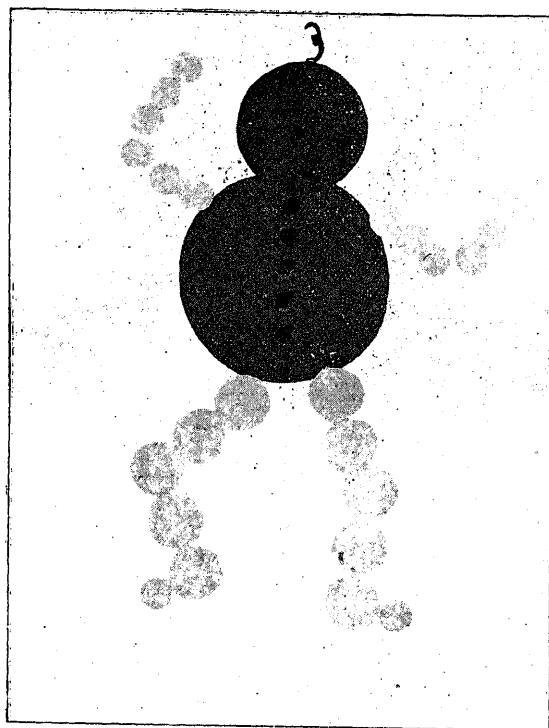
か云ふ印象の深いものがある關係で、子供等は大抵眼をずっと上に畫くものである。



こんな姿勢にしたのである。

見た。勿論實際に駆ける時の姿勢はこんなどではなく、けれども、感じを強め且つ作り易くするために

これは體は二箇の丸で作り、手や足に大きさの異なる丸を混せて使つて見たのである。
供にも考へさせて作らせて見るがよい。



第五圖 第

以上述べた所は丸を用ひて作る一例に過ぎないのであるから、先生ももつと面白いものを考へ子